



# まちづくりの進め方

## 目指すまちの姿の実現に向けてどうするのか？

「住みたいまち・住みたいまち」=目指すまちの姿(創造、絆、環境)の実現に向けて、協働や連携、成長を原則としてまちづくりを進めていきます。

そして、まちづくりを進めていく過程(プロセス)の中で石狩PRIDEの醸成<sup>※1</sup>を目指します。

※1 醸成:ある気運や状態などを徐々に作り出すこと

※2 まちづくりの分野:基本施策に示される、行政運営における暮らし・福祉・産業などの分野のこと

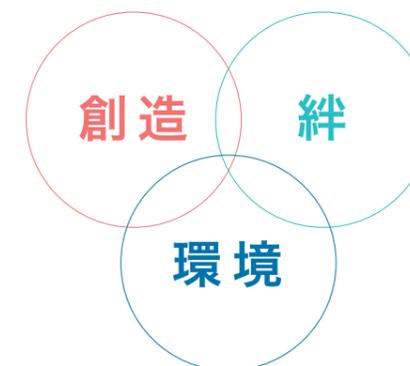
成長

まちづくりに関わる人や地域が共に高めあい成長する

様々な取組が、市民や地域に広がり、人や組織、地域が成長していくまちづくりを進めていきます。

「住みたいまち・住みたいまち」

目指すまちの姿(将来像)



達成度

連携

横断的な連携により  
かけあわせてたくさんの効果を

まちづくりの分野<sup>※2</sup>にとらわれず、関係する人々や活動を横断的に連携しながらまちづくりを進めていきます。

また、様々な事業や取組を連携することで、より効果が高まるようにします(1+1は2ではなく、5や10にする)。

協働

市民と行政と一緒に

まちづくりは、市民だけで行うことはむずかしいですし、行政だけで行うものでもありません。市民と行政がパートナーとなり、ともに支え合う関係を大切にしながら進めていきます。

いま



時間

# 総合計画を動かす



絆

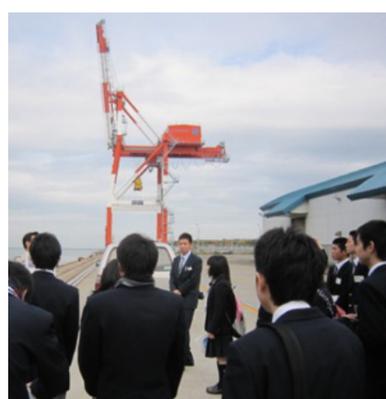
総合計画をつくるだけでなく、  
しっかりと動かしていくことが大切です。

また、様々な社会環境の変化に

柔軟に対応しながら計画自体を進化させ、

目指すまちの姿(将来像)の実現に向けて

進んでいきます。



1

## 計画自体が進化していくしくみ

目指すまちの姿(将来像)の実現に向けて着実に進めるためには、計画をつくるだけでなく、しっかりと動かし、時代の変化に柔軟に対応しながら、計画自体を進化させていく必要があります。

そのため、これまでの縦割りの施策管理から大きく転換し、様々な事業や取組、分野が横断的に連携して進める戦略目標を設定して、市民とともに計画を動かしていきます。

市民が計画にかかわることで計画自体が進化するしくみを大切にして、まちづくりを進めます。

2

## 市民による市民のためのまちづくり(地域経営)のしくみ

市民がまちづくりに関心を持ち、まちづくり活動をはじめようとする意識を高め、まちのために一人でもできること、仲間と一緒にできることなど、市民が楽しみ、やりがいと誇りを感じながら、まちづくり活動に取り組むことができるしくみを通して、目標達成に向けて進めます。

3

## 市民目線での行政経営のしくみ

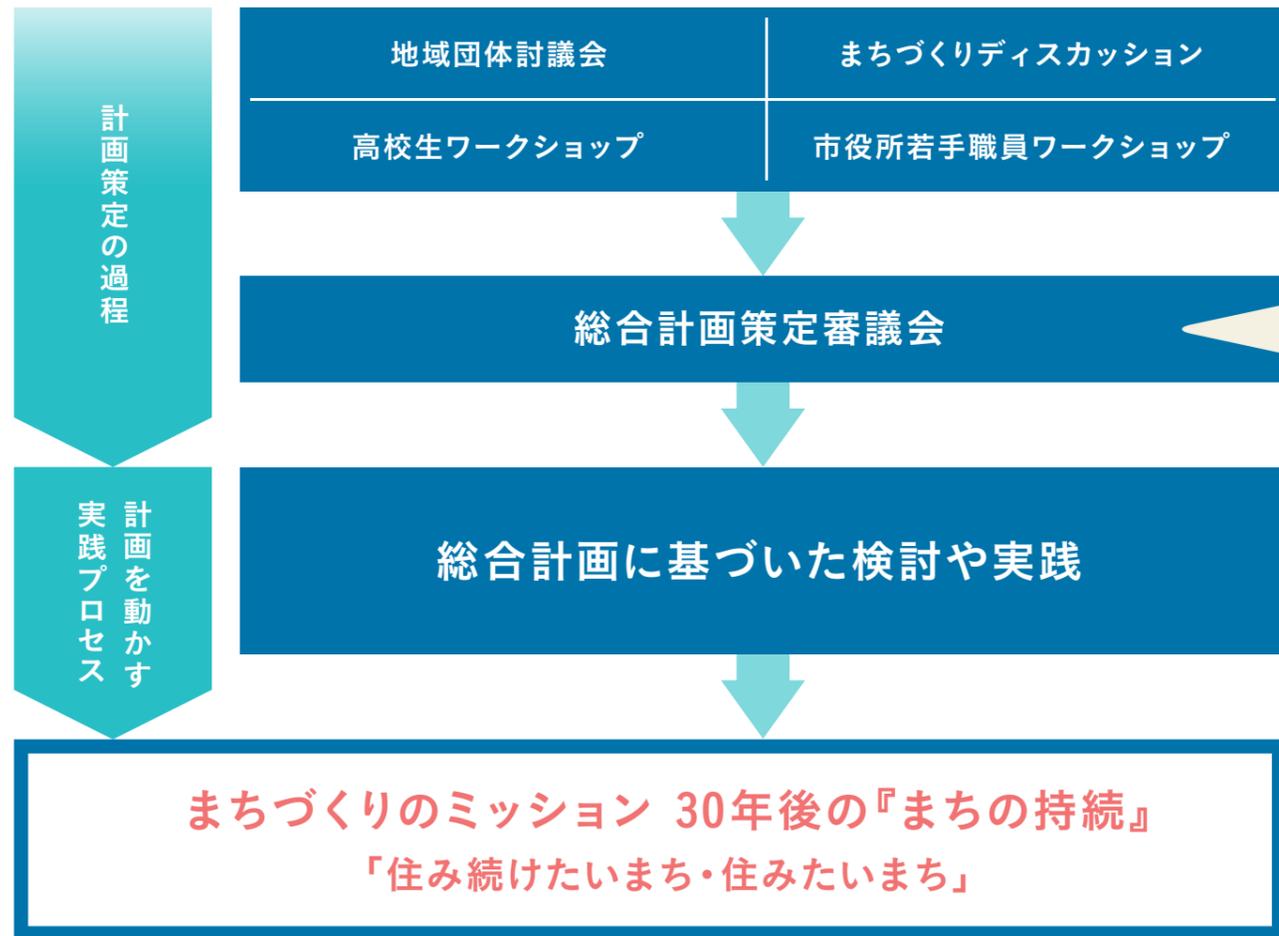
まちづくりを進める上で、市民が考え、自発的に進める取組などがしっかり実践につながるしくみを大切にします。また、「協働」の視点のもと、行政経営に市民の声が反映される市民目線でのまちづくりを進めます。



# 戦略目標の実践のための プロセス<sup>※1</sup>とアイデアカード

5つの戦略目標は、市民協働による視点から、審議会などを通して市民自らが議論し、取りまとめられたものです。その議論の過程では、様々なアイデアが出され、それらをアイデアカードとしてまとめています。

戦略目標の実現に向けた協働の実践は、時代やニーズ<sup>※2</sup>に即して、このようなアイデアカードを組み合わせたり、あるいは、不足している部分を補ったり、見直したりしながら、市民・事業者・行政それぞれが考え、取り組んでいきます。



### まちづくりアイデアカード

《新現役世代<sup>※3</sup>の活躍》

- 持続的なまちづくり組織をつくる**
  - 地域会議を発展させたNPO<sup>※4</sup>化
  - カフェやオフィスで集まる場を
- 「多世代が集う新しい受け皿」をつくる**
  - 楽しいテーマで集まる場づくり
  - 子どもと高齢者の遊び
- 病院ボランティアサービス**
  - 病院ボランティアから収益を
  - 自宅～病院～該当科へのアテンドサービス<sup>※6</sup>(送迎も)
- あなたが主役キャンペーン  
～第2の人生はまちづくり～**
  - 「熟年市民の会(仮)」をつくる
  - メリットや特典をつくる

《いしかりの顔づくり》

審議会では「新現役世代の活躍」「いしかりの顔づくり」をテーマにアイデアカードをつくりました。

- いしかりマルシェ<sup>※5</sup>**
  - 企画、運営から市民や地域住民の手で実施
  - 周りの人を呼び込みながら実施
- いしかりポイント**
  - ポイント制の有償ボランティア制度をつくる
  - 見守りや生活支援に還元
- 女性の活躍の機会づくり**
  - 女性が働く市民カフェをふやす
  - 空き店舗・空家を使ったカフェ
  - 目玉スイーツを考案する
- I Road プロジェクト**
  - 市民によるおすすめルートの検討や発信
  - ルート上に新たな魅力を創出
- 市民によるいしかり発信**
  - 美しい景色や素晴らしい資源を市民や海外客に発信
  - HPで発信、動画コンテストなど
- 厚田浜益の資源を磨く**
  - 厚田浜益の景観を磨く
  - 北海道大学や藤女子大学と連携した街並み調査
- 石狩鍋の食文化の伝承**
  - いしかりの「食文化」を伝承・発信
  - 地元ならではの鮭の食べ方を伝承(さばき方なども)
- 食の魅力づくり**
  - 海産物のピザなどで北海道のイタリアとしてプロモーション
  - エゾシカを資源に鹿肉ジビエ<sup>※7</sup>
- いしかりLOVE な人づくり**
  - 田舎暮らしの体験ツアー実施
  - 一次産業と連携してプログラムを造成

※1 プロセス:物事を進める手順と過程  
 ※2 ニーズ:生活や経済活動を営む上での要求や需要  
 ※3 新現役世代:審議会(分科会)の中で、知識や技能、経験を有する高齢者を「高齢者」ではなく、「新現役世代」と呼ぶこととした  
 ※4 NPO:民間非営利団体(non-profit organization)の略称。様々な社会貢献活動(事業も含む)を行い、団体の構成員に対し収益を分配することを目的としない団体の総称  
 ※5 マルシェ:フランス語で「市場」という意味  
 ※6 アテンドサービス:移動などが困難な人に付き添ってお世話すること  
 ※7 ジビエ:狩猟で得た天然の野生鳥獣の食肉の意味(フランス語)。食肉として有効活用した料理や加工品の提供などの取組もある